課題Ｎｏ．１	
課題名	土地利用型農業法人の早期経営安定　（「農地中間管理事業」関連課題）
計画期間	令和３年度～令和４年度
対象名及び対象者数	農事組合法人おさとファーム（役員５人）
課題の背景	・農事組合法人おさとファームは，令和元年 9 月に，組合員 15 名で設立し，経営面積は令和 2 年度実績で水稲 18ha，大豆 2ha である。なお，令和 2 年秋には小麦を 19ha は種している。 ・前身である小里営農組合の解散・法人設立に伴い，組合員の離脱や水稲部分の個別対応により，経営面積は従前の組織より減少している。 ・法人の経営エリアでは，鹿飼沼地区農地整備事業（H23～R6，受益面積 383ha）が実施され，担い手に約 7 割を集積する計画だが，令和元年度の実質の集積率は 61%となっている。ほ場整備事業を契機に委託を希望する農業者が増加しており，今後，法人の経営面積が拡大する見込みである。 ・組合員 15 名のうち実際作業に出役している組合員は 8 名で，5 名の理事の平均年齢は 69 歳で年齢が高く，早期に従業員や後継者の確保対策を講じる必要がある。 ・法人設立時に，中期経営計画を策定したが，その後修正、見直しは行っておらず，労働力の分配や機械の利用等，計画的な法人運営には至っていない。また，経営を早期に軌道に乗せ持続的な法人経営が可能となるよう，中長期計画の整理・具体化や法人運営のための基本的なスキルの習得が必要である。 ・法人の基幹作物である大豆や麦の栽培経験が少なく，今後経営を安定させていくためには，栽培技術の習得による収量の確保と，米－麦（大麦，小麦）－大豆の輪作体系の確立が必要である。 （前年度までの実施状況と今後の改善方向） ・法人会計勉強会や資金繰り表検討を通し，法人経営管理能力向上を支援した。 ・大豆生育調査ほを設置し，適期作業指導と合わせて生育の数値化を図り，栽培基本技術の習得と来年以降の生産計画策定を支援した。 ・経営エリアでは，面工事は令和 3 年度で終了したが，暗きょ工事施工まで今後数年かかるため，排水対策を中心とした湿害対策が必要である。
期待される対象の変化	・法人の経営計画が着実に実行され，持続的な経営が可能になる。 ・生産性の高い土地利用型作物生産が行われ，法人経営が安定する。
県実施方針上の関連項目	1-(1)　先進的経営体や地域の核となる経営体の育成　及び経営の安定化・高度化支援 1-(5)　収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援
地域基本方針上の関連項目	1-(1)　地域農業を支える担い手の経営安定化支援 2-(1)　水田フル活用による先進的な水田農業の確立
担当チーム員	◎髙橋真樹子　三上雄史　森田昌孝 佐々木美和　伊藤嘉彦 担当班及び進行管理責任担当者：地域農業班　佐々木　美和

令和４年度	
成果指標	定性的目標 ・法人の経営計画が着実に実行され，持続的な経営が可能になる。 ・生産性の高い土地利用型作物生産が行われ，法人経営が安定する。 定量的数値目標 策定計画数　R2 年　0　→　R3 年　1（実績）（単年度計画）　→　R4 年　2（単年度計画，中期計画）
活動指標	定量的数値指標（合計総現地活動日数　58 日） ・法人経営管理技術向上支援　28 日(中期経営計画策定支援，作業計画策定支援等) ・転作作物の栽培技術向上支援　30 日(大豆ほ場準備支援(排水対策)，栽培管理指導等)
関係機関の主な役割分担項目	涌谷町（法人安定化支援，補助事業活用支援）　ＪＡ新みやぎみどりの地区本部（生産販売支援）
関連事業名と役割	・農地中間管理事業（農地集積）

課題Ｎｏ．２

課題名	蔵元のニーズに対応した「吟のいろは」の品質向上と栽培定着 （「持続可能な農業・農村構築」関連課題）
計画期間	令和４年度
対象名及び対象者数	松山町酒米研究会（「吟のいろは」生産者１４人）
課題の背景	・「吟のいろは」は心白発現，収量性が良いという特徴を持ち，農家収益の向上が図れる。試験栽培を含めて５年が経過したが，県優良品種ではないものの，酒造好適米として県でも需要拡大を期待している品種である。 ・県内24蔵元中22の蔵元が原料として使用しており，令和３年度の宮城県清酒鑑評会では，受賞した12銘柄中５銘柄が吟のいろはを原料とした酒となった。 ・生産者，実需者それぞれが，より高品質な米や酒を作ろうと模索している段階であるが，実需者からは原料米の品質の均一化を求める意見が出ている。 ・松山町酒米研究会では，求められる原料米の品質を確保するため，土づくりや肥培管理等について研究を重ねており，毎年開催する酒米コンクール等で会員相互による技術の研鑽を図っている。 ・栽培面では，肥培管理技術早期確立に向け２年間展示ほを設置し，仮設定された目標収量構成要素を基に，施肥設計，肥培管理を指導し，データを収集した。令和3年産は肥培管理等の向上により，千粒重が重く，心白発現率も概ね80%以上と充実した米になった。一方で籾数の過剰や青未熟の発生，倒伏が落等の要因となり，より細やかな施肥管理が求められている。 ・展示ほ等の生育，品質等の結果を踏まえ，令和4年産に向けた栽培マニュアルを作成した。令和4年度は新たに取り組む生産者の支援に留意しながら，各生産者がそれぞれ栽培を実践し，品質の改善に向け結果の検討を重ねていくことがさらに重要となる。 ・コロナ禍で日本酒の消費が減少している中，令和４年産の「吟のいろは」の需要は増加が見込まれている。消費の増加及びそれに伴う栽培面積拡大のためには，吟のいろはに対する実需者の理解を深め，需要に結びつけていくことが重要である。
期待される対象の変化	・「吟のいろは」の栽培技術習得が図られる。 ・蔵元のニーズに沿った栽培目標を実践できるようになる。
県実施方針上の関連項目	1-(1)　先進的経営体や地域の核となる経営体の育成及び経営の安定化・高度化支援 2-(2)　多様化する需要の変化に対応した生産・販路拡大への取組支援
地域基本方針上の関連項目	1-(1)　地域農業を支える担い手の経営安定化支援 3-(1)　需要の変化に対応した生産・販路，販売の拡大
担当チーム員	◎阿部　香，三上雄史，佐々木美和， 飯沼千史，大友愼次 **担当班及び進行管理責任担当者**：先進技術班　飯沼千史

令和４年度

成果指標	定性的目標 ・「吟のいろは」の栽培技術習得が図られる。 ・蔵元のニーズに沿った栽培目標を実践できるようになる。 定量的数値目標 ㎡あたり籾数　27千粒(±5%)　　達成生産者数　Ｒ３　４名　→　Ｒ４　１０名
活動指標	定量的数値指標（合計総現地活動日数　74日） 活動事項 （１）栽培管理技術確立支援　46日（展示ほ設置，運営，収量等調査結果まとめ，生産者への伝達） （２）関係機関と連携した交流・PR活動　28日（関係機関との連携及び交流，研究会情報発信支援）

関係機関の主な役割分担項目
・ＪＡ新みやぎみどりの地区本部（生産販売支援）　・全農みやぎ（米穀部）
・大崎市（プロモーション，世界農業遺産認証制度等）　・古川農業試験場（栽培管理技術確立及び種子確保支援）
・産業技術総合センター（醸造技術支援）　・食産業振興課（日本酒のPR支援），・みやぎ米推進課（種子確保支援）
・北部地方振興事務所地方振興部（酒造組合，関係機関との連携支援）

関連事業名と役割　　米価下落対策パッケージ

課題Ｎｏ．３			
課題名　土地利用型農業法人が取り組む加工業務用にんじんの生産安定　（「園芸振興」関連課題）			
計画期間	令和４年度～令和５年度		
対象名及び対象者数	（農）タカギ農産，（農）中埣ファーム育み，（農）中田アグリ，（農）サンファームあがと，（農）みらいす青生（５経営体）		
課題の背景	・令和３年産米価格の大幅下落を受けて，農業者の経営安定のために露地園芸作物への一層の転換が推進されている。 ・美里町内の土地利用型農業法人が加工業務用にんじんを契約出荷により生産する取り組みが令和元年度から始まっている。年々取組面積は増加しており，令和３年度の作付面積は延べ6.0haとなっている。中埣地区の４法人については土地利用計画策定や共同作業などで連携した動きも見られている。 ・にんじんは比較的，水稲や大豆と作業競合しない作業体系を組みやすく，加工業務用途は出荷規格が簡素で確実な販売が見込めるため，収入源として有力である。 ・美里町総合計画では10ha規模の土地利用型野菜及び５ha規模の施設園芸を令和７年までに３品目とする指標を掲げており（現在２品目），にんじん生産の拡大が期待されている。 ・ほ場の排水対策による湿害回避，肥大性があり割れにくい品種の選定など，水田転作及び加工業務用途に適応した生産技術の向上を図る必要がある。また，天候の影響を受けることが多いため，適期播種や病害虫防除の重要性が増してきている。 ・水田転作による野菜生産の取組として地域への波及効果が期待される。		
期待される対象の変化	・生産技術の向上により実需者が求める品質が確保され出荷量の増加が図られる。 ・複数の農業法人が安定して生産することで，実需者への継続出荷が可能となる。		
県実施方針上の関連項目	１－（４）園芸産出額の増大に向けた園芸産地の育成・強化支援 １－（５）収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援		
地域基本方針上の関連項目	２－（１）水田フル活用による先進的な水田農業の確立 ２－（２）園芸振興と園芸産地の育成支援		
担当チーム員	◎上山啓一，蘇武　真，伊藤博祐， 齋藤憲治，飯沼千史	担当班及び進行管理責任担当者	先進技術班 飯沼千史

令和４年度

成果指標	定性的目標 ・ほ場条件の改善や適期作業の取組が行われるようになる。 ・水田転作による高収益作物として経営の基幹品目となる。 定量的数値目標 ・対象経営体が加工業務用として12月末までに出荷する総量　R4：７％増，R5：15％増 70.2t(R3)　→75.1t(R4) →80.7t(R5)
活動指標	定量的数値指標（合計総現地活動日数　76日） 活動事項 ・栽培技術向上支援（病害虫対策，土壌環境調査など）　26日 ・栽培体系確立支援（品種検討実証，生育確認調査，現地検討会など）　50日

関係機関の主な役割分担項目
・JA新みやぎみどりの地区本部（生産販売支援，事業導入支援など）
・美里町産業振興課（経営体育成支援，事業導入支援など）　・農業・園芸総合研究所（生産技術支援など）

関連事業名と役割